KUAS 京都先端科学大学大学院
ビジネススクール

産業AIスクール

経営者のための AIネイティブな組織づくり

～顧客の声と組織の暗黙知から、次の事業の種を見つける～

本講座では、部門や個人に散らばった顧客情報や社員の知見を、会社の財産として積み上げる考え方を学びます。さらに、「次の事業の種はどこにあるか」という同じ問いを、情報の状態が異なる3つのAIに投げ、答えの質がどう変わるかを体感。部門を越えた営業機会や新たな事業の種の発見につなげます。



知見を会社の財産に
社員がAIに渡してきた判断の前提や素材を、会社の財産として積み上げる

部門を越えてつなぐ
顧客情報や売上、営業日報、問い合わせ履歴など、部門ごとに分散した情報を横断的につなぐ

事業の種を見つける
同じ問いへのAIの答えの変化から、部門を越えた営業機会や「自社だからできる事業の種」を発見する

講師 藤田 義崇 氏
アジアクエスト株式会社 代表取締役社長COO
京都先端科学大学 産業AI研究室 特任教授

開催概要

実施日：2026年12月8日（火）
会　場：TKPガーデンシティ京都タワーホテル
受講料：通常66,000円 → 早割55,000円（税込11,000円引）
募集定員：10名（先着順）
形　式：対面・実践型（3時間30分）
持参物：ノートPC
早割申込期限 12月1日（火）
最終申込期限 12月4日（金）

※定員に達した次第受付終了とさせて頂く可能性がございます。※講義終了後には、講師や参加者との懇親会も予定しています（参加任意・受講料に含む）。

対象者
経営者・役員・部門長など、社内でAI利用は始まっているものの活用が社員個人に閉じ、顧客情報やノウハウが部門・個人に分散したままになっている企業の方

講座の概要
部門や個人に散らばった顧客情報や社員の判断の前提・素材を会社の財産として積み上げ、会社として育てたAIと誰もが対話できる状態を体感します。同じ問いを情報状態の異なる3つのAIに投げ、答えの変化から営業機会や新規事業の可能性を見つけ、自社で最初に何を会社の財産として積み上げるかを考える講座です。

主な内容（演習を中心とした実践型プログラム）

1. **次の事業の種はどこにあるか**
既存顧客のニーズが部門や個人に散らばり、経営層に届いていない構造を理解する。

2. **データがつながると何が見えるか**
同じ問いを、データが散らばったAIと部門横断のデータがつながったAIに投げ、見える事業機会の違いを体感する。

3. **会社として育てたAIと対話する**
組織の暗黙知まで積み上げたAIに同じ問いを投げ、「自社だからできる事業の種」へ答えが変わることを体感する。

4. **自社で最初に積み上げるものを決める**
自社で最初に会社の財産として積み上げるものと、最初につなぐデータを整理する。

主催 京都先端科学大学大学院 ビジネススクール 産業AIスクール
KUAS 京都先端科学大学 Future Makers from Kyoto
協力 アジアクエスト株式会社 AQ AsiaQuest

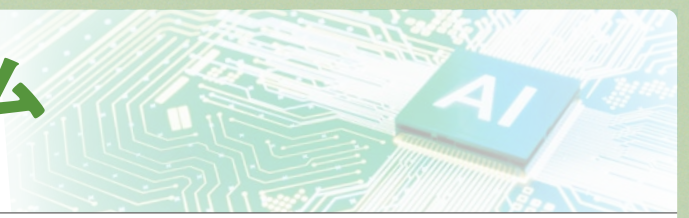
参加申込・詳細はこちら

右のQRコードから、講座の詳細・申込方法をご確認ください。

※本チラシは正式版ではありません。講座内容・日程・受講料等は変更となる場合があります。

講義プログラム

LECTURE / WORKSHOP



開 講 13:00　｜　講義終了 16:30　｜　懇親会 16:30〜17:30

講師

藤田 義崇 氏

アジアクエスト株式会社 代表取締役社長COO
京都先端科学大学 産業AI研究室 特任教授

1979年神奈川県生まれ。2004年東京大学大学院農学生命科学研究科修了、三菱商事入社。
2015年PT. Dipo Star Finance副社長CFO兼CPOとして業務改革を推進。2023年アジアクエスト入社、同年より
デジタルトランスフォーメーション事業部長としてお客様のDX推進に尽力。2026年3月より現職の代表取締役社長COO

区 分	テーマ	時 間	講義内容
導 入	本日のゴールとアジェンダ	5分	到達目標とアジェンダを共有する。
講 義	次の事業の種はどこにあるか	20分	事業成長の機会は既存顧客のニーズを起点にすべきであること。そのニーズは顧客がすでに語っているが、部門や個人ごとに散らばり、経営層が自分で拾えなくなっていること。
講 義	AIネイティブな組織とは	10分	「自分のAIが賢く感じるのはなぜか」を分解し、それが一人のAIの中に閉じている損を示す。社員が渡してきた判断の前提や素材を会社の財産として積み上げ、誰もが引き出せる状態をAIネイティブな組織と定義する。
準 備	実践に向けた環境構築	10分	弊社から配布するアカウントへのログインと動作確認。
実践①②	データがつながると何が見えるか	30分	「次の事業の種はどこにあるか」を、データが散らばったままのAIと、部門横断のデータがつながったAIに投げる。数字から見える事業成長の機会が、横断して初めて見えることを確認する。
休 憩	休憩	10分	休憩
実践③	会社として育てたAIと対話すると何が変わるか	45分	会社として育てたAIに同じ問いを投げる。数字から見えた機会が「自社だからできる事業の種」に変わることを体感し、実践①〜③の答えを比較する。
共 有	気づきの共有	15分	3〜4人のグループで、実践①〜③の答えがどう変わったか、何が効いたかを共有。講師が1〜2グループ分を全体に紹介。
講 義	実践③の答えを出せる会社になるには	25分	実践③の答えを生んだ会社の財産を振り返り、受講者が自社で何を積み上げるべきかに一般化する。財産を積み上げた人の評価、AIの提案の判断を経営の論点として示す。
持ち帰り	自社で最初に会社の財産として積み上げるもの	20分	事前課題をもとに、受講者が自社で最初に会社の財産として積み上げるものと、最初につなぐデータを1枚にまとめる。講義全体のまとめを含む。
質疑応答	質疑応答	20分	講師による質疑応答

懇親会 16:30〜17:30

※講義内容・進行順序・時間配分は、当日の進行状況等により変更となる場合があります。あらかじめご了承ください。

お申し込み方法　いずれかの方法でお申し込みください

01 申し込みフォーム

お支払い：銀行振込

申込後、案内に従ってお支払い

02 Peatix

お支払い：各種支払い

Peatixの申込ページから